

スリランカでの研修について 報告する学生（伏見区で）



スリランカでの体験報告

龍谷大生「労働者の格差実感」

スリランカの紅茶工場見
学体験や現地の人との交流
について龍谷大生が発表す
る報告会が、龍大深草キャ
ンパス（伏見区）で開かれ
た。

海外でのボランティアに
関心のある学生が学びを深
める「海外体験学習プログ
ラム」に参加し、2～3月
にスリランカと台湾に渡航
した5人が発表。龍大ボラ
ンティア・NPO活動セン
ターが主催し、最大6万円
を補助する企画で、200

7年度から続いている。
スリランカへ渡航したグ
ループは2～3月、最大都
市コロンボ近郊の家庭に滞
在し、紅茶の産地として知
られる南東部のウバ州で工
場などを見学した。

国際学部国際文化学科2
年、井道友士さん（19）は、
紅茶農園で働く労働者の居
住区を訪問し、生活環境の
悪さを実感したと発表。1
日に20ほどの茶葉を摘ん
でも800円ほどしかもら
えず、民族による支配関係

(C)読売新聞社。無断転載・複製禁止。放送、出版等での二次利用の際は
読売新聞知的財産担当（mail: t-chiza106@yomiuri.com tel:03-6739-6961）まで。

2019年 5月26日 読売新聞 提供

掲載日:2019年09月19日, 面名:H02XX0, 記事ID:K2019091940000001100

(C) 河北新報社

特産・雄勝石活用した陶器作りで交流

雄勝小・中

全児童が講師役に

祖父母、住民に手順紹介



地域住民と交流しながら皿作りに取り組む児童

石巻市街中へ「房狭い」を託し、
「相交支を断絶せ、地帯を離る」を条件に、
いなか陣のワシモンを通じて文を交えた。
祖母・京太郎は、
「娘と、親を、京都へ」を命じた。
小学三年生30分参列。
小吉が人形を手に、
置かれた膳の前の茶
を杯とて口に用いた。
かた形を置くと、皿
の作りは、桂を以て
出した。腕に片袴をひ
かき、かた手をしたず
る手振を。
（う）の縁が空をて、
少しだけ、成形する
ふたつ、
なぐ、そぐ、それ、血
が、しつか、手順を明で
行事を授けた。

2019年 9月19日 石巻かほく 提供

2019年10月14日 (月) 大塚本紙朝刊 朝刊 第 1 頁

曳山 ボランティアが支え

大津祭本祭

担い手不足、町外の子供も活躍

湖国三大祭のひとつ「大津祭」が13日、本祭を迎え、きらびやかな曳山13基が笛や太鼓、鉦のお囃子とともに、大津市の旧市街地一帯を練り歩いた。江戸時代初期から約400年の歴史を持つとされる大津祭だが、近年は少子高齢化や人口流出で担い手不足が深刻化。大津祭曳山連盟などは伝統の維持に向けて、試行錯誤を続けている。

かつては地元元男性のみ、今は女性や大学生、外国人も参加している。大津市は約300人が集まった。13基の曳山のうち、丸屋の「西王母山」には龍谷大の1〜4年の学生ら約20人が曳き手として参加。地元の曳き手の指導のもと、同連盟は毎年ボランティアで、真剣な表情で綱を引いた。

曳山に乗って鉦や太鼓を打ち鳴らす「囃子方」を担当する各町内の子供の数も減少。西王母山では子供約10人の囃子方ほとんどが町外の子供たちだ。町外から参加している小学4年の丸島淡海さん(10)は囃子方になりたかった父親の夢を託され、小学1年から毎年、鉦を鳴らしている。今年も囃子方を務めた丸島さんは「練習で新入りの子に、一から教えるのが大変だったが、本書は楽しい」と笑顔を見せていた。



「西王母山」で鉦を打ち鳴らす丸島淡海さん(右から2番目)。囃子方のはとんどを町外の子供たちが務める。



本祭を迎えた大津祭の曳山13日、大津市

Copyright © The Sankei Shimbun. All rights reserved. 掲載記事、写真の無断転載を禁じます。

2019年10月14日 産経新聞 提供

曳山巡行湖国彩る

約四百年にわたり湖国の人々に親しまれる大津祭（国指定重要無形民俗文化財）の本祭が十三日、大津市であった。台風19号の影響で十二日の宵宮は中止されたが、一夜明けたこの日は十三基の曳山が無事に巡行し、街を彩った。（土井 繁）

大津祭本祭

同市京町の天孫神社の例祭で、湖国三祭にも数えられる。十三の旧町内が、見物に訪れた約十四万人



台風一過の好天の下、琵琶湖を背に巡行する大津祭の曳山＝いずれも大津市で

①おんやしを奏で市街地を巡行する曳山 ②曳山から投げられたまき（手を伸ばす人たち）

（主催者発表）を楽しませた。紋付き姿の囃子方が笛や鉦、太鼓で「コンチキチン」の音色を奏でると、旧市街地のにぎわいは最高潮に達した。

天孫神社で神事を終えた十三基は、くじ取らずの「西行桜狸山」を先頭に出發。途中で曳山を止め、趣向を凝らしたからくりを動かす「所望」も行った。中

京町の「源氏山」では、石山寺で紫式部が源氏物語を書いた伝承にちなんで仕掛けが披露された。上演後は曳山の上から厄よけのちまきがまかれ、見物客が手を上げて取り合った。

龍谷大（京都市伏見区）の学生ボランティア二十一人も参加し、「トコヨイ」の掛け声に合わせて丸屋町の「西王母山」を曳いた。リーダーとして参加した二年の土肥亮太さん（ちひ）は「伝統を楽しめた。大事にしていきたい」と話した。

2019年10月14日 中日新聞 提供